

令和5年度 学校評価アンケート集計結果について

山形県立米沢東高等学校 学校評価委員会

今年度のアンケートは、令和5年12月21日から令和6年1月15日まで実施した。アンケート対象者は、本校生徒全員とその保護者、教職員である。保護者の回収方法は、令和4年度より連絡用ツール「さくら連絡網」を利用した Google フォームでの実施とし、スマートフォン・パソコン等を利用しての入力である。スマートフォン・パソコン等で入力できない方には直接アンケート用紙をお渡しして記入していただいた。

質問は昨年度と同様とし、教育目標（全体及び各年次）を添付した。

回収率は生徒97(91)%、保護者73(59)%、教職員86(76)%となり、全て増加した(()はR4年度)。

回答の選択肢に、D「わからない」を加えてほしいというご意見があるので、次回は検討したい。次に、本校の教育課題と学校経営について、今年度のアンケート結果から考察する。

I. 本年度の学校経営（概況）

A) 学校行事等について

- ・新型コロナ第5類移行に伴って多くの行事や活動がコロナ禍以前に準じて実施されるようになった。しかし、コロナ感染が全くなくなったわけではなく、インフルエンザの流行などもあり、施設訪問や部活動単位でのボランティア活動などはコロナ禍以前ほど実施されていない。アンケートの結果にもそれが良く現れている。
- ・夏季の学校行事は熱中症対策を講じ、エアコン設置教室等での開催やリモート開催により実施した。
- ・部活動では運動部・文化部ともに大会が開催され、フェンシング部の東北・全国大会出場等各種目で優秀な成績を収めた。
- ・修学旅行では、予定通り広島・関西方面へ3泊4日の研修を行った。
- ・年間を通して、予定通りの授業時数が確保された。

B) 本校志願者を増やす工夫について（高校入学者選抜 R5 本校志願者 0.59倍）

- ・オープンスクールは、各中学校にアンケート調査を行い多くの中学生が参加できる日程とし、8月の暑さを考慮してエアコン設置教室を活用し、熱中症対策を講じて実施した。中学生の申込み数は398名と過去最高であった。
- ・授業公開・部活動公開も「まるごと公開パッケージ」として複数回実施した。
- ・今年度より公式インスタグラムやフェイスブックを開設し、職職員・生徒の協力を得ながら学校生活をリアルに紹介するタイムリーな情報提供や周知に努めた。インスタグラムの更新頻度も県内第一位である。

II. アンケートの数値分析

1. <学習指導>

- ① 質問内容は「家庭学習に主体的、計画的に取り組んでいるか」に対し、肯定的な意見(A+B)は(以下同様の集計)、下記が一番右側の数値(太字)である。該当項目は、質問事項8(生徒・保護者)・11(教職員)である。

生徒：68%(R01) → 72%(R02) → 74%(R03) → 70%(R04) → **77%(R05)**

保護者：70%(R01) → 73%(R02) → 73%(R03) → 72%(R04) → **72%(R05)**

教職員：86%(R01) → 97%(R02) → 97%(R03) → 92%(R04) → **97%(R05)**

年次別に見ると1年次生70%(保護者71%)、2年次生71%(保護者65%)、3年次生87%(保護者78%)である。1年次生は、授業の予習復習・課題への取り組みが定着しつつある。さらに「主体的」な学習活動を行うためにも基礎力の定着が期待される。2年次生はここ数年60%前後の推移となっていたが、今年度は70%を上回る結果となった。文理の科目選択を機に、さらに興味関心を引き上げ、より「主体的」になる取り組みが期待される。3年次生では進路実現に向けて計画的に取り組んでおり、受験生らしい数値となっている。

「課題の分量・内容は適切である」とする教職員は97%である。多くの生徒は期日を守って課題を提出しており、生徒の頑張りが見られる。「課題」については、授業内容を定着させるために必要な学習量である。家庭学習に主体性がないと感じている3割の生徒を上手く導き、高校生活の限られた3年間で実力を身につけさせる必要性を感じる。

- ② 本校独自の取り組みの質問項目として、質問事項7(生徒)・13(教職員)「i-Seeプロジェクトの意義を十分理解し、積極的に取り組んでいる」に対する回答を注目すると、生徒の高い意識が数値に現れている。

生徒：86%(R01) → 94%(R02) → 94%(R03) → 93%(R04) → **95%(R05)**

教職員：74%(R01) → 81%(R02) → 88%(R03) → 95%(R04) → **89%(R05)**

3年次の課題探究発表会(ポスターセッション)には外部有識者や保護者にも参観して頂き、好評を得た。年次別に見ると1年次生99%(91%(R04))、2年次生92%(91%(R04))、3年次生94%(96%(R04))であり、全体的に高い意識での取り組みが継続し、昨年度の1年次に続き2年次生への取り組みもリニューアルされたことで、3年間を見通した更に充実した深い探究活動が期待できる。大学等の入試の多様化に伴い、探究内容は面接やエントリーシートでも活用されることがますます多くなっている。教職員は専門分野を担当するとは限らないため、指導方法の難しさを感じながらも、一人一台端末の活用で円滑に活動できるようになってきている。進路指導課では、指導方法について「指導の手引き」などを用意し、全教員が指導しやすい工夫をしている。将来、グローバルで未解決の現代的課題に果敢に挑む態度を育てるために、冊子「現代を知る」の購読も全学年で継続して行った。

2. <生活指導>

- ① 質問事項3「学校に行くのが楽しい」の肯定的数値は、80%を超える良い数値が出ている。

生徒：78%(R01) → 85%(R02) → 84%(R03) → 83%(R04) → **87%(R05)**

保護者：83%(R01) → 83%(R02) → 85%(R03) → 87%(R04) → **84%(R05)**

生徒については数値が良くなり、9割近い生徒が毎日の生活に満足していると考えられる。年次別に見ると1年次生86%(保護者83%)、2年次生89%(保護者79%)、3年次生84%(保護者89%)であり、ほとんどの生徒は充実した校内生活を送っている。

感染症対策や酷暑による熱中症対策等、各種行事は生徒会執行部を中心に様々な工夫を凝らして従前の規模に近い形で実施されるようになった。生徒会の企画力、生徒一人ひとりの生き生きとした行動力と積極性には目を見張るものがある。一方、「学校に行くのが楽しくない生徒」と「その子どもを心配している保護者」が各年次に約2割いることにも留意し、生徒・保護者・教職員の相互の意思疎通を図りながらより一層の信頼関係を深め、今後の指導に生かしていきたい。

② 質問事項 17「悩みや不安を相談できる先生がいる」に関しては、

生徒：71%(R01) → 74%(R02) → 71%(R03) → 80%(R04) → 79%(R05)

保護者：74%(R01) → 79%(R02) → 72%(R03) → 75%(R04) → 72%(R05)

年次別に見ると1年次生78%（保護者71%）、2年次生79%（保護者76%）、3年次生79%（保護者70%）である。修誠会（PTA）の補助もあり、スクールカウンセラーには今年度も年間22回、月2回の割合で来ていただいて、希望者は誰でも相談できるようにしている。

教職員の27「生徒から悩みや不安の相談を受けた時、充分時間を取って対応している」に対する回答では100%となっており、生徒の「悩みや不安（心配なこと）があるとき相談できる先生がいる」の数値が80%に近く、相談しやすい環境に改善されている。しかし、教職員とは受け取り方にまだ差があるため、今後より一層生徒に目を配り、相談しやすい体制づくりに万全を期したい。

③ 質問事項 生徒9・教職員32「社会や地域に貢献する活動に、積極的に参加している」については、生徒の肯定的な数値が今年度も上がらず、教職員と生徒の間に顕著な開きがある。

生徒：37%(R01) → 32%(R02) → 35%(R03) → 32%(R04) → 36%(R05)

教職員：81%(R01) → 90%(R02) → 82%(R03) → 84%(R04) → 81%(R05)

雪灯籠製作は、本年度は雪不足のために中止となってしまった。地域の祭りやコミセンの行事などにも積極的に協力しているが、雪上カルタ大会のように生徒には地域活動として意識されていない場合もある。また、生徒の設問にはボランティアと明記されている点や年数回の活動に対して「積極的に参加している」とは言えないと判断したことも回答の差の一因と思われる。

生徒は学習・部活動などで時間に追われ、なかなか活動に参加できない状況である。そのような多忙な時間の中でも、社会貢献活動を快く引き受け、ボランティア活動を厭わない生徒達が高い評価を得ている。部活動単位でのボランティア活動などにも積極的に取り組んでいきたい。

3. <進路指導>

① 「進路決定のための情報が提供されている」の質問 11 は、

生徒：92%(R01) → 97%(R02) → 94%(R03) → 95%(R04) → 95%(R05)

保護者：75%(R01) → 78%(R02) → 74%(R03) → 74%(R04) → 76%(R05)

生徒には「情報提供がなされている」という高い評価を得ているが、保護者の受け止め方とはやや開きがある。

保護者質問の12「進路講演会や進路相談が適切に行われている」では、全体で85%の方が適切であると回答している。情報提供は生徒を介してプリント等で保護者にも伝えられるようになっているが、より具体的な資料や情報を求める傾向もあり、「さくら連絡網」の活用など一層の工夫が必要である。

② 「進路相談が適切に行われている」の質問 12・教職員 23 は、

生徒：93%(R01) → 98%(R02) → 96%(R03) → 98%(R04) → 96%(R05)

保護者：80%(R01) → 79%(R02) → 77%(R03) → 81%(R04) → 85%(R05)

教職員：93%(R01) → 100%(R02) → 100%(R03) → 92%(R04) → 97%(R05)

生徒・保護者とも高い評価を得ている。朝会前や昼休みに時間を取り、生徒面談をしている教職員もいる。多忙な校務の中、進路課や各年次団の努力の跡が伺える。

教員の意識において、質問項目 23「生徒・保護者に対して入試制度の理解と進路達成のために必要な情報提供と適切な助言が行われている」についても非常に高い数値だった。今後も生徒と保護者の進路に関する相談要求は常に高いことを意識していかなければならない。

4. <総務・教育環境>

質問事項 「災害・事故等の非常時の備えや行動について」の質問には、

22「学校で地震や火災などが起こった場合、どのような行動をとれば良いか具体的に知らされている」

生徒：97%(R01) → 97%(R02) → 96%(R03) → 99%(R04) → 95%(R05)

22「災害・事故などに迅速に対応し、非常時の備えに努めている」

保護者：87%(R01) → 90%(R02) → 88%(R03) → 91%(R04) → 89%(R05)

33「災害・事故・事件等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう役割分担が明確化されている」

教職員：95%(R01) → 95%(R02) → 91%(R03) → 97%(R04) → 92%(R05)

35「施設・設備について、日常的に点検や管理が行われている」

教職員：100%(R01) → 100%(R02) → 97%(R03) → 97%(R04) → 95%(R05)

結果は非常に高い数値を示し、安全についての意識も高いといえる。生徒・保護者・教員の危機管理意識は高いまま保つことができている。設備に関しては、Wi-Fi 環境も整えられ、一人一台端末・iPad・スマホなどが全教室で使えるようになった。コロナ禍の経験を経てリモートでの授業もできるように改善された。生徒も上手に機器を使いこなしている。

スマホに関する使用条件を緩和したことから、利用に関するモラル指導が一層重要となっている。

生徒 23・保護者 24 質問事項「さくら連絡網」の活用について

「役立っている」と回答した生徒は97%（保護者98%）で、年次別に見ると1年次生100%（保護者97%）、2年次生93%（保護者99%）、3年次生98%（保護者97%）である。教職員は出欠確認が簡略化され電話対応による業務が軽減された。

年次・部活動からの配信など、様々な情報伝達に活用されており、コロナ禍以降、度々日程変更などがあり、その緊急連絡手段として重要な役割を果たしてきた。

Google Classroom 等も様々な連絡に活用されており、ICT化が更に進んだ1年であった。

5 <教職員に対するアンケートについて>

高い数値の微動で大きな変化が見られない中で評価の低い項目は、質問項目 36「学校ホームページをよく閲覧する」は65%（66%(R04)）である。グループウェアやGoogle Classroom 等と比べてHPで見る必要性を感じなくなってきたためと考えられる。それに比して質問項目 37「グループウェア、Google Classroom を活用している」は95%と非常に高い数値である。情報共有を図る上では更に高い数値を期待したい。

質問項目 教職員 34「施設・設備の拡充」78%（71%(R04)）については、南校舎・体育館が老朽化しており、窓の開閉・カーテンの開閉・雨漏り・タイルの剥がれなど、トラブル

が発生している。緊急性の高いものについては予算がつき改修済みであるが、東校舎についても老朽化が見られ修繕箇所の要望が多くなっている。そのような中、体育館のトイレが洋式となったのは生徒にとっても良い改善であった。

老朽化した校舎の修理に関しては「県立高校再編整備基本計画」のこともあり、予算化はなかなか困難な状況である。毎月の安全点検を活かし、安全な学習環境の保全に努力を続けたい。

酷暑対策（熱中症対策）のための冷房機械の設置については、新たに多目的教室1大に設置した。今後体育館への簡易式移動クーラーの設置（県設置）が決定するなど、徐々に改善されている。しかし、実習教室等設置されていない教室も多く、設置に向けて県への継続した要望を行い計画的に進めていきたい。